

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	12	—	事業名	平和行政事業	担当部課	総務部行政課
------	----	---	-----	--------	------	--------

基本情報	総合計画	基本方針	5	みんなの力を結集する自治と協働のまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	1	住民と行政が協働するまちづくりを進める	款	2	総務費
		施策の進め方	—		項	1	総務管理費
	まちづくり 行程表	フラッグ	F1	「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～	目	1	一般管理費
		政策分類	1	住民の力を生かした新しい役割分担の仕組みをつくる	大事業	8	平和行政事業
	その他(関係法令、要綱等)	長久手市平和事業推進委員会設置要綱					
事業開始の背景、経緯等	・平成26年9月30日に非核平和都市宣言を行ったことをきっかけに、非核平和都市にふさわしい取組をすすめている。 ・平成28年5月31日に長久手市平和事業推進委員会を設置した。						

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) ・平和活動に尽力するための啓発、催事等を行う。					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) ・市民(市民の平和に対する意識)					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) ・市民が主体となり、戦争の悲惨さや平和の尊さを次世代に伝承していけるように後方支援を行う。					
	事業を構成する事務事業	① 平和行政事業	現状維持	④			
	②		⑤				
	③		⑥				

コスト推移	項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	事業費(A)	千円	決算	予算		1,523	2,871	1,315
決算					1,408	2,777	1,178	
人件費(B)	千円	決算		5,041	3,743	3,866		
総コスト(A)+(B)	千円	決算		6,449	6,520	5,044		

成果推移	成果指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	A 事業全体の市民分担割合	%	目標			70	75	80
実績						80	85	
B 原爆写真パネル展の観覧者数	人	目標		100	100	500	500	
			実績		100	564	570	
C		目標						
			実績					

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 事業全体に係る市民が担う割合により、市民主体の高さが判断できる。(事業に係る時間数の割合により算出)

B パネル展示の観覧者数の増減から、市民の平和行政に関する関心の高さが判断できる。

C

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ・千葉県我孫子市では、平和事業推進市民会議を設置して、平和事業を推進している。 ・東京都小平市では、市民懇談会を設置し、行政との協働により平和事業の推進に取り組んでいる。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) ・2つの成果指標とも目標を達成できた。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) ・戦争を経験した世代が高齢化しており、今後どのように戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継いでいくのか検討する必要がある。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) ・引き続き市民が担う割合を増加させ、また、若い世代にも参加してもらえるようにしていく。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 2021年(平和事業推進委員会設立から5年後)までに、事業全体の市民分担割合を90%にする。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		平和行政事業										
番号	①	事務事業名	平和行政事業		款	2	項	1	目	1	大事業	8	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成27年度		終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	<ul style="list-style-type: none"> ・市民を対象 ・原爆写真パネル展、語り部による戦争体験を聞く集い及び中学生広島平和体験学習事業を年1回、終戦記念日前後に実施している。 ・懸垂幕による啓発を実施している。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争の悲惨さや平和の尊さを後世に語り継ぐことで、市民の平和に対する意識の醸成を図る。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算		1,523	2,871	1,315	1,234
		決算		1,408	2,777	1,178	
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
① 広島平和体験学習事業委託						972	千円
② 消耗品費						95	千円
③ 平和事業推進委員会報償金						92	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
語り部の参加者数	人	目標		—	80	80	100
		実績		—	134	138	
原爆写真パネル展の観覧者数	人	目標		100	100	500	500
		実績		100	564	570	
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年8月11日 語り部による戦争体験を聞く集い ・平成29年8月8日～8月13日 原爆写真ポスター展 							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

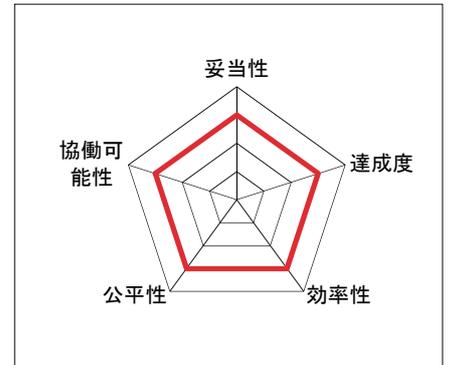
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
<ul style="list-style-type: none"> ・非核平和都市宣言をきっかけに、市民の思いを尊重した事業の取組を推進していく。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
<ul style="list-style-type: none"> ・今後減少していく戦争体験者の貴重な経験を広く情報収集し、記録として保存していく。 ・市民主体の取組を継続していくために、幅広い世代の参画を促す。
(何をどのような状態に改善したのか)
<ul style="list-style-type: none"> ・戦争を知らない若い世代にも戦争の悲惨さを感じてもらえるよう原爆写真パネル展のチラシを小中学生に配布し、周知を図った。 ・戦争体験を聞く集いでは、開催場所とは別の部屋でも中継が見られるようにした。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
<ul style="list-style-type: none"> ・戦争を知らない中学生を対象とした広島平和体験学習事業では、中学生が戦争の悲惨さについて学ぶことができた。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
<ul style="list-style-type: none"> ・語り部が高齢化しており、今後どのように戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継いでいくのか検討する必要がある。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
<ul style="list-style-type: none"> ・語り部が減っていくことが予想されるため、新たな語り部の募集を行う。 ・語り部が高齢化しているため、ビデオ撮影などでの継承を検討する。